

# 平成27年度 学校自己評価システムシート（県立朝霞西高等学校）

目指す学校像	伸びる朝西、伸ばす朝西、感動と達成感あふれる学校をめざします。
重点目標	1 伸ばす授業を工夫展開し、生徒の学力を一層向上させる。 2 より高い目標に向かって努力させ、各自の進路希望を実現させる。 3 秩序と規律を守ることを徹底し、責任ある行動をとらせる。 4 教育活動や将来像を学校内外に伝え、本校への信頼を一層高める。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	4名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1月15日 現在)		
年 度 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が授業や課題等に真面目に丁寧に取り組んでいるが、自ら進んで学習する姿勢は不十分である。</li> <li>教務事務の効率化により生徒への指導時間を確保し、授業研修や授業評価を通して授業改善と学力向上を進める。</li> </ul>	①学力向上を目指し、伸ばす授業、魅力ある授業を展開する。 ②生徒の学習に対する意欲を高め、家庭学習時間、自己学習時間を増やす。	①授業評価アンケート（7、12月）で授業理解度を把握し、授業改善に活用する。 ①年次研修者の研究授業や授業研究週間（年2回）の機会を活かし、課題発見や授業改善の情報交換の場を増やす。 ②教科・学年間の連携を深め、予習・復習の徹底を図り、自己学習時間を確保する。 ②小テスト、週末課題などを通し、家庭学習時間の増加と適切な評価に繋がる工夫設定をする。 ②課外補習、長期休業中の補習講座を数多く設定する。	①授業評価アンケートや学習状況調査（スタサポ）に基づき、生徒の授業理解度は高まったか。 ①年次研修会や授業研究週間での授業相互見学等を活かし、授業の工夫改善は進んだか。 ②各授業や課題、作問などの研修が効果的であったか。 ②学年教科等で家庭等での学習時間の増加につなげる方策が取れ、家庭学習時間は増えたか。	①授業評価アンケートは予定通り2回実施。課題への取組み94.5%、授業の理解度74.4%生徒の授業に対する高い満足度や規範意識を確認できた。 ①年次経験者研修の研究授業や研究協議を11月に実施。生徒が互いに教え合う協調学習など工夫を凝らした指導が見られた。教科を超えた学年ごとの意見交換を行い授業改善につなげることができた。 ②学習状況調査（4、9月）では1、2年生の家庭学習時間は減少傾向にあり、学年・教科を通して改善に向けて指導中。	A	①教務事務の簡略化により生徒への手厚い指導がさらに出来るよう検討する。 ①授業改善に向けて、研究授業や研究協議会での意見交換など積極的に進めてきたが、この取り組みは継続していく。 ②課外補習について、生徒の進学意欲がより高められるよう学年や教科・進路指導部と連携を強化していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の進路希望に対応するため、きめ細かな指導を行っている。</li> <li>現在6割が大学短大に進学をしている。より高い目標への意欲の喚起と、自主的継続的な努力への促しが課題。</li> </ul>	①安易な進路選択を避け、第一志望実現のために進路意識を高め、自発的な行動を支援する。 ②精選した情報の提供と、時機を得たガイダンスにより、一般入試に対応できる力をつける。	①年間を見通した観点から進路講演会等の行事を企画し、自己実現に向けての意識づけを行う。 ①学年・教科・分掌と連携し、学習習慣の定着や課外補習等の学力向上に向けた取り組みを促す。 ②進路情報分析会や研修会、教科研修会を通じ、情報の共有や生徒の現状を踏まえた効果的な指導を目指す。 ②各種の模試を実施し、振り返りを含めて学力向上への意欲の喚起と結果の有効活用を促す。	①適切な時期にそれぞれの行事を関連付けて実施できたか。 ①進路情報を教員間で共有し、積極的に活用できたか。またそれに基づき、生徒の学習支援ができたか。 ②各種の研修で得た知識を活用してガイダンス資料を作成し、学力向上に向けた取り組みを促すことができたか。 ②個々の進路希望に沿った模試を適切に実施し、生徒の支援ができたか。 ②進路希望に対する生徒のアンケート結果。 ②多くの生徒に一般入試への挑戦を促すことができたか。	①自己実現に向けてほぼ計画通り進路の取組みを進め、生徒の意識向上を促した。 ①教務・学年・教科と連携し、3年生の通年課外補習を4教科で実施した。 ②校内研修3回、外部機関主催の進学研修会への教員の参加者が増え、最新の進路情報収集と分析により、丁寧な進学指導を進めた。 ②センター出願者は154名、昨年より微増。国立大や難関私大をはじめ一般入試への挑戦意欲は年々高まっている	A	①進路多様な生徒に対し、安易な進路選択や進路変更を避けるため担任や保護者と連携を強め、情報を共有していくことが課題である。 ①家庭学習時間の確保、課外補習の一層の充実に向けて、学年・教科と連携を強化する。 ②今年度は、実力テストの自己採点と振り返りを同日に行い、生徒の意欲喚起に努めた。生徒の意識も変わりつつあり、引き続き内容の充実を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かい継続的な指導により、本校生の身だしなみ、交 通マナーなどが飛躍的に改善され、地域からの評価も高まりつつある。</li> <li>この状態を本校の校風として定着させていくために、生徒の中に自主性、自律性、朝西生としての誇りを育む。</li> </ul>	①生徒指導に関する教職員の共通理解を深め、生徒の規範意識を育む。遅刻防止、挨拶や交通マナーの遵守に向けて、指導を徹底し安全安心な学習環境を醸成する。 ②部活動、生徒会行事をさらに活性化させ、生徒の活躍する機会を増やす。	①スカート丈指導3年目、整容指導を日常的に実施する。登下校時の身だしなみ指導や挨拶運動を月1回程度実施。 ①遅刻防止に向け、組織的な指導とともに全生徒に8時35分までの登校を進める。 ①自転車マナーアップのため、交通安全指導・交通安全講話などを実施。（7、12月） ①生徒会の生活委員会を活用し、生活委員による年間2回の生徒指導週間を設け、生徒の自主的な取り組みを実施。 ②部活動での生徒の活躍。 ②部活や学校行事に全力で取り組み、生徒の学校生活への充実感、満足感を高める。	①生徒指導マニュアルの見直し、整備はできたか。 ①教職員の生徒指導に関する共通理解は深まったか、組織的な取り組みをする体制を作れたか。 ①生徒一人一人に応じた指導を行い、生徒の身だしなみや挨拶に対する自覚を高め、意識の改善を図ることができたか。 ①スカート丈をはじめ、身だしなみ、遅刻指導等について、状態の改善をはかることができたか。 ①頭髪・身だしなみ・挨拶・遅刻などの指導を保護者の協力を得て推進できたか。 ②生徒の部活動等での活躍状況。 ②しいのき祭入場者3000名など諸行事が盛り上がり生徒が満足するものとなったか。 ②各種生徒アンケートの結果による学校生活の満足度。	①年度当初に各学年の「生徒指導マニュアル」を確認し、生徒指導に対する教職員間の共通理解を深めた。3年目となった「スカート丈指導」も全学年に定着し成果を上げた。 ①遅刻指導が功を奏し、前年と比較しても多くの生徒が始業5分前までに登校している。（昨年度遅刻者数一日平均6.6名、今年度3.1） ①登下校指導、3校合同指導、保護者との連携により生徒の交通マナーは大幅に改善、傘差し運動もほぼなくなった。 ②部活動加入は全生徒の約80%。県大会をはじめ多くの大会への出場や地域貢献活動などで生徒の活躍が目立った。 ②生徒会を中心にしいのき祭は充実した内容で実施。入場者数は2000名を超えた。	A	①生徒の規範意識は著しく向上した。この規範意識が校風となるよう指導を継続する。 ①生徒会生活委員会を活用し、年2回の生徒指導週間など、生徒の自主的な取り組みを組織、自主・自立の気風を育てたい。 ②運動部・文化部ともに一層活動を支援し、上位大会やコンクールでの活躍を求める。 ②学校行事や生徒会行事に対する生徒の意識は高く、質の高い行事になりつつある。さらに生徒の挑戦意欲を高める指導を進めたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>『週報』やHPを通し、生徒・保護者・地域の中学生などに生徒の活躍を広報している。</li> <li>朝西見学会を年4回実施している。学校説明や授業見学など年々充実しているが、さらに工夫を加え、参加者増加に対応する。</li> </ul>	①本校の教育活動や生徒のさまざまな活躍を広く広報し、生徒、保護者及び地域の本校への理解と関心を高める。 ②地域の期待に応えるとともに生徒募集を充実させる。	①年間を通して、毎週発行する『週報』により本校生の活躍や教育活動を広報。（年間30号） ①HPを毎日更新して、最新の教育活動情報（学校行事、部活動等）を発信。 ②朝西見学会（年4回）の内容を工夫し、参加希望者、入学志願者数を増やす。 ②進学フェア、市教委、近隣中学主催の説明会に参加し、入試情報を中学生や保護者に提供する。	①『週報』30号の発行で本校の様子を内外にタイムリーに発信できたか。 ①HPの更新が適宜おこなわれたか。部活動は試合結果をできるだけその都度載せたか。 ②朝西見学会に工夫改善がなされ、参加希望者が増えているか。 ②進学フェアや中学校訪問において本校の入試情報を正しく伝えることができたか。	①本校の重要な情報発信手段である週報は、内容を工夫し、生徒・保護者から好評を得ている。予定通り30号発行。 ①HPはさまざまな教育活動の場面、部活動の活躍、国際理解教育活動などをタイムリーに更新できた。 ②朝西見学会では、回を追うごとに昨年以上の参加者数を確保。全4回で2300名（昨年より140名増）を超える参加者を迎え、180組の個別相談に対応。 ②進学フェア、中学校訪問、塾主催の高校説明会など校外の説明会で1000名を超える相談に対応し、1月の希望調査では500名を超える本校希望者数を確保。	A	①「週報」を生徒・教員の全てが関わる広報誌と捉え、広範な情報や原稿の提供を求めていく。 ②夏季の見学会日程の見直し、11月の見学会＆公開授業では例年以上の700名超の見学者を迎えた。受け入れ体制にさらなる工夫をし、一層スムーズな運営ができるようにする。 ②個別相談の希望者が年々増えている。今まで以上に説明会等に参加し、多くの中学生の相談に対応できるようにしたい。

学 校 関 係 者 評 価
実施日平成 28年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等
①授業評価アンケートは良い取組だ。より厳しい授業や、講義形式からアクティブラーニングの手法を用いた双方向授業などを求める声がある。工夫して取り入れていただきたい。 ②週末課題などの取組をしているが、家庭学習時間にまだ課題がある。アンケート結果を生徒に公表するなどして、厳しい現状を認識させた方がよいのではないかと。また、自主学習時間を増やすためにさらなる工夫をしてほしい。 ①英数国をはじめ多くの補習を実施しているが、実施日や時間などが事前に生徒に十分周知されていない面がある。事前に、ある程度時間的な余裕をもって生徒に周知してほしい。 ②設置場所の関係から進路資料室が入りにくいという声がある。進路指導部では、様々な工夫をし情報提供をしているが、さらなる取組をしてほしい。週報を活用し、細かな進路情報を掲載したりしてはどうか。 ②「介護」学習について、進路指導の一環として朝光苑の職員による講話はどうか。 ①「スカート丈指導」3年目となり、本校のこれまでのイメージを大きく変えるほどの成果となっている。生徒の登下校時のマナーも良く、すがすがしい通学風景だ。入学前のイメージと多少ちがいが、校則は厳しいが、先生と生徒の仲が良く学校生活が楽しいという声がある。 引き続き頑張してほしい。 ②朝西を受検する生徒は以前とは大きく変わり、『しっかりした生徒』でなければならなかった。こういう評価を大切にすべしだ。部活動の活躍も伝わってきている。野球部が毎週月曜日の朝、学校周辺のゴミ拾いをしていることも評価している。
①週報は、他に類を見ない素晴らしい伝統であり本校の貴重な広報手段だ。進路情報などを掲載することで、生徒・保護者に大切な情報を周知ができる。大いに活用した方がよい。 ①HPは最新の情報が掲載されており必要な情報が得やすくなっている。「校長室より」も教職員や生徒との良いコミュニケーションツールになっている。 ②来年は1クラス増の360名募集となるが、1月の進学希望者は500名を超えた。中学生・保護者の期待に応える朝西の取組を継続していただきたい。